

ていひあへり、このむしどもとらふるわらべは、をしきもの、かれがほしがるものをたまへばさ
まざまにおそろしげなるむしどもをとりあつめて奉る。かはむしはけなどはをかしげなれど、
おぼえねばさう／＼して、いほむしかたつぶりなどをとり集めて、うたひの、しらせてきか
せ給ひて、われもこゑをあげて、かたつぶりのつゝ、あらそふやなぞといふことをうちずんじ
給、○下

〔和漢三才圖會五十二雀甕すゐのたて 蚝蟲 躁舍 雀兒 飯甕 帖蜥房 天漿子 俗云雀乃太古○中

按俗云雀擔タケ桶ゴ是也。果樹枝間在之。形似草麻子。取甜栝榴樹上者。可治兒驚癇。正二月未開口者佳也。
遲則空殼耳。或採雀甕紙包收。經日開之。乃燈蛾出去。

〔重修本草綱目啓蒙二十七雀甕 斯。ス。ミ。ノ。ツ。ボ。古。名。ス。メ。ノ。タ。ゴ。ス。メ。ノ。シ。ヤ。ウ。ベ。ン。タ。

ゴ。京。ス。メ。ノ。マ。ク。ラ。作。州。ス。メ。ノ。サ。カ。ツ。ボ。信。州。イ。ラ。ム。シ。ノ。ス。一。名。帖。蜥。殼。逢。本。經。原。

衰也。只家郷藥 帖蜥一名 黧爾雅 毛蟲通雅 戡毛本經

帖蜥ノ窠ナリ。帖蜥ハイラムシ。ラコゼ。雲州ハンキヤウシ。勢州梅樹林檎棗樹等ニ生ジテ葉ヲ食

フ。長サ七八分。形扁ク。色黄ニシテ。黒色ノアツマリタル毛處處ニアリテ。馬鬣ノ如シ。若シ是ニテ

觸レバ。甚人ヲ惱シム。秋深レバ樹枝ニツイテ。白乳ノ如キ者ヲ吐シテ身ヲ覆フ。後ニ凝テ雀卵ノ

如ク堅シ。長サ五六分。濶サ三四分。淺黒色ニシテ。堅ニ白キ紋アリ。コレヲ破リ開ケバ。内ニ蟲アリ。

小鳥好デ食フ。夏ニ至レバ甕上ニ圓孔ヲ穿チ。其中ヨリ羽化シテ出飛ブ。其蛾褐色ニシテ厚キ翅

アリ。本經逢原ニ。至夏羽化而出。其形有似蜻蛉。而翅黑稍濶ト云フ。

〔倭名類聚抄十九蛭蟻 兼名苑云。蛭蟻尺郭 一名螂蟻即威 爾雅注云。一名螂蟻子六 說文云。蟻和名
之。無。屈伸虫也。

〔箋注倭名類聚抄八名。按神代紀招訓乎幾。謂招致鷹之餌爲乎幾惠。亦是也。尺蟻屈伸。有如招物之